朝日 歌壇 俳壇

川野里子選

一途とは美しいこと強い事余力を残し馬場あき子さん退く　（西海市）前田　一揆

病室の妻を見舞へば見たこともなき表情の一輪の花　（岐阜市）後藤　進

両腕で自分をやさしく抱き締める自宅介護の合間合間に　（中央市）江熊佳代子

この町はこんな風景だったのか新幹線の徐行運転　（横浜市）森　秀人

原節子を守る為だと戦場に行きし若者ありき昭和に　（狭山市）奥薗　道昭

「トランプのように大胆に実行を」こんな言い方職場で始まる　（湖西市）佐藤きみ子

採血の針の迷いが隠せない看護師がいてドンと手を出す　（和歌山市）岡田　信也

空を飛ぶクルマはいらぬこの町に必要なのは地を走るバス　（阪南市）岡本　文子

桃太郎四人並んだおゆうぎ会忖度という喜劇のようで　（厚木市）三橋　京子

ヒト型のロボットひざ曲げ立っている我が転ぶは無理の無き事　（東京都）渡辺　京子

【評】二首目、見慣れない表情の妻の美しさにハッとする。四首目、低速の車窓にゆっくり現れる町の風景だ。五首目、こんな悲しい「推し活」があった。何とか自分を納得させたかったのだろう。六首目、付いていって大丈夫か？と危ぶむ。

佐佐木幸綱選

「帰りたい」と泣く母の電話切った後のびてしまったうどんを食べる　（西条市）丹　佳子

購入を諦めきれぬマンションの背が伸びてゆく心が縮む　（朝霞市）小峰　拓朗

のどかさよ古き洋画に悪役が必死で捜す公衆電話　（名古屋市）磯前　睦子

姪は今日ウズベキスタンへ発ちゆけり医師団の荷を背に揺すり上げ　（長野県）千葉　俊彦

目印は大きなレモンの木の家の跡形もなく家二軒建つ　（神戸市）田崎　澄子

退職と共に名刺の束捨てき一人筏で旅立つやうに　（岐阜市）後藤　進

草鞋もて岩の凸起を探り攀づ金峯山まであと滝二つ　（京都市）中川　大一

ニット帽に和コート羽織り電車待つ僧侶佇む残雪の駅　（京都市）有賀　香

雪消えし庄内の田はくろぐろと田起こし待てりみちのくに春　（横浜市）白川　修

スーパーの前にお客のそり並び新雪光る札幌の街　（仙台市）沼沢　修

【評】第一首、施設から出たいと泣く母を電話で説得した場面。表現しにくいところに挑戦した。第二首、マンションが高騰していると聞く。結句の切ない気持ち、分かる。第三首、公衆電話が大活躍した時代の映画のワンカット。

高野公彦選

商店街にふたつ行列できる春開業の店廃業の店　（西条市）村上　敏之

火を消した後にゆっくり旨み出す煮物味わいまったり生きる　（我孫子市）千代島ぬい子

トランプのサイン連発ペン先で「終末時計」の針を進める　（柏市）加藤　安博

未来人いかなる評価下すらむ戦争終へるためのディールを　（東京都）佐藤　幹夫

時間差で同じ満月見上げてる常陸太田とガザ、ウクライナ　（常陸太田市）八幡　康

旅支度早い私と遅い姉大きなカバン小さなバッグ　（富山市）松田　わこ

ユーミンとタツロー、サザンのカセットは断捨離無用の青春遺産　（札幌市）田巻　成男

寒戻り気落ちする日の続く中つぼみなれども沈丁花挿す　（飯田市）草田　礼子

つばめ来て眼の前でする空中遊泳「ただ今」嬉し「お帰りなさい」　（東京都）松木　長勝

週二度の通所は吾の学びの場老いゆく先を教へられゐる　（愛媛県）前田　知子

【評】1首目、世の中の栄枯盛衰は誰にも予測できない。2首目、〈ゆったりした人生〉を楽しむ作者。3首目と4首目、唐突な行動で世界中をはらはらさせるあの人物を描く。5首目、かの地の人々は日本人より7時間ほど遅れて同じ満月を見る。

永田和宏選

「来て」に付くみちのくの語尾あたたかし秋田では「けれ」山形は「けろ」（仙台市）沼沢　修

「紐で来た帯で来た来た」白魚汲む東風のひかりに叉手ひるがへす　（津市）中山　道治

AIには出来ないだろう「ひとつだけ忘れてました」と振り向くなんて　（大和郡山市）四方　護

月曜が少し憂鬱とつぶやけば「一人前や」と祖父は笑った　（富山市）松田　わこ

陽だまりの護岸ブロックに亀並ぶ次の一手はどこに置こうか　（三沢市）三山さおり

「ぬ」の字はね斜め前から見たかたち箱坐りした猫の姿よ　（仙台市）坂本　捷子

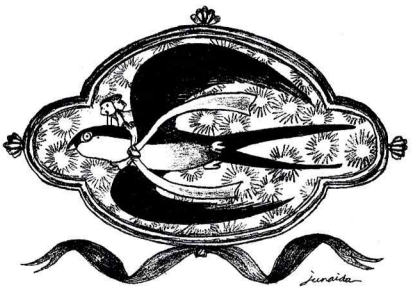
三月の十四日はπの日とう三・一四一五九二　（北海道）小松　祥一

舌でなく咽で味わうと蘊蓄を語れる友と春の地ビール　（埼玉県）中里　史子

後半が太くなってる生命線これからだなとカツカレー食う　（出雲市）塩田　直也

はじめての馬場あき子選が星マーク四十二年は活字の小さし　（山形県）南岡　二郎

【評】沼沢さん、語尾のあたたかさは則ち、それを日々使っている土地の人々のあたたかさでもある。中山さん、「紐で来る帯で来る」に大漁の喜びの実感が。四方さん、そう、AIにはついうっかり忘れてしまうなんて高級なことはできないのだ。



〈日曜日のブローチ　01〉　junaida

〈日曜日のブローチ〉をお届けします

本日4月6日付の紙面から1年間、歌壇俳壇面の挿絵は画家のjunaidaさんが担当します。1978年生まれ。2015年に「HOME」でボローニャ国際絵本原画展に入選しました。18年の「Michi」以降、「の」「怪物園」「街どろぼう」「EDNE」「世界」など立て続けに絵本を出版し、「怪物園」はIBBY（国際児童図書評議会）ピーターパン賞など受賞。「の」は昨年11月に切手にもなりました。

今回、歌壇俳壇面の挿絵を手がけることを決めたのは、「俳句や短歌と自分の絵という組み合わせに興味があったから」というjunaidaさん。「祖父は多摩のお百姓さんで俳句も詠んでいて、私家版の句集も残してくれたので今もたまに開くことがあります。自分が絵本作りの中で、短さ、奥行き、彩り、といったことを意識するのは、何か俳句に通じるものがあるのかもしれません」

年間を通したタイトル〈日曜日のブローチ〉には、こんな思いが込められています。「週ごとの連載ということで、この挿絵が読者のみなさんの一週間を彩るお守りのような存在になれたら素敵だなと考えました。空想のブローチではありますが、日曜日ごとに出会う週替わりのブローチを、こっそり心のどこかに付けて過ごしてもらえたらうれしいです」

東京を皮切りに22年に始まった大規模個展「IMAGINARIUM」は全国を巡回中。今月19日から6月22日まで新潟県立万代島美術館（新潟市）で、7月5日から8月末までひろしま美術館（広島市）で開かれます。（歌壇担当　佐々波幸子）

◆今月から川野里子さんが歌壇の選者に加わります。
◆「大串章選」は選者が体調不良のため休みます。

風信

第36回斎藤茂吉短歌文学賞　同賞運営委員会主催。本多稜さん（57）の「時剋」（本阿弥書店）に決まった。

大辻隆弘著「短歌の「てにをは」を読む」　助詞や助動詞に注目し、歌の新たな見方や魅力を伝えるエッセー集。（いりの舎・1980円）

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき